

散花

宇宙よりも遠い〇所
CG集

「あ…あの…
これ…」

「オレ達さあ

日向ちゃん
仲良くなりたい
と思っててね

「だからこうやって
親睦会を…ね♡」

「んじゃ
そろそろ始めるとするか

ガク

ガク

ガク

「まずは
この『力乳を楽しませてもうつか』

ぶるー

「い…や…や…あ」

「やべえ…
日向っぽいエロすぎだろ」

「うお…ツ
すげえな…」

がく

ひツ!?

ぶるー

がく

「ツ!?

「ぐ…ツおツやベ…!
射精すぞ日向ッ!
全部ぶつかけてやるツ!!」

オツ

「くそッ!
はやく代わってくれよッ」

「ハアハア…まじすげ…
日向っぽい最高だわ」

「や…ツ
やめツやめ…」

びく

「ふツ…おツおツ…
はあう気持ちいいい…」

ビク

す

「オラッ!
特濃種汁ぶっかけだッ!!」

「ひぐッ!?

「はあ…
ふう…すげえ射精でたわ…」

「うつ…ひぐ…」

「ああツクン
もう我慢できねえッ!!」

「おおおッ射精るツ!!」

「ひいツ!!」

ビクン

「ふく…ツ」

ビクル

ビヤリ

ビクン

ヒヤグ

「あ…あ
勿体ねえな
無駄撃ちだろそれ(笑)」

「仕方ねえだろ…ツ
このデカ乳見たらもう…」

「よーし日向ちゃん
オレはま●こ可愛がってやるぜ♡」

「お…おねが…い…します…
ゆる…し…」

「もう諦めて楽しめって
初めてってわけじゃねえだろ日向ちゃん」

「ツ…や…や…いや…」

「あれ…?
日向ちゃんもしかして初物?」

「ひッや…嫌あああああッ!!
ようしオレがセックスの
楽しさを教えてやるよ日向ちゃん♥」



「おっしゃあッ!!
初物いただきッ!!」

「ひぎいッ!!」

「オレが初めてで嬉しいだろ
日向ちゃん(笑)」

「ひツ…んツギ…や…ぐツ!!」

「じゃ激しくいくぞッ!
オレの事忘れないようにしてやるッ!!」



「アカ乳もしつかり可愛がってあげるからね(笑)」

「んッぐ!!」

ビクッ

ビクン

す
ち
ゅ

「ひあッ!
や…やああああああッ!」

「ほらほらグリグリしちゃうよ♪
「ひあッ…ふく…ツ!
やッ…め…やめ…」

「おッ乳首弱いのか?
ま●ごビクビク反応しやがるぞ」

「ふッ…ふく…ツ!

「やッあッ！
ひやめッ♥ち・ちぐ・びやめ…」

「好きなんだろ乳首
弄つて欲しいんだろ日向ちゃん？」「

「ぐつお…ッ！
綿りが…」

「ひあああッ！
やツ♥あツ♥おが…しぐ…
やツやツやツイぐツイぐツ♥」

「やらあああああッ！
イぐつううううううッ!!」

す
ち
や

す
ち
や



「ツひああああツ!!」

「ぐッ射精るツ!
孕めツ孕め日向ツ!!
日向ま●こ種付けツ!!」

「ふああ…
はー…はあ…
」

「はあ…
初物ま●こ最高…」

「無理矢理ハメられていくとか
淫乱だなあ日向ちゃん(笑)」

「や…た…すけ…たす…け…て…」
「おーし…次は俺だな
日向ちゃんイかしまくってやるからな♥」



「ひあやツあツアツ！」

「オラオラどうだ日向ツ
俺様のち●ほは!?」

「ん…んぐッ！
ふあツあつああツ!!」

「遊んでねえで
さっさと済ませろよ
後がつかえてんだよ」

「ハイハイ分かったよ
んじゃいくぞ日向
子宮口責めでアヘらしてやるツ!!」

「ふぎッ!?」

「へへッどうだ
子宮口痺れるだろ?(笑)」

「あ…んぐ…ぐッ!
や…やめ…んぎッ!!」

「あ…ぐッ…
や…たす…げ…」

「やべえくらい気持ちいいだろ」

「よーしもつと激しく突いてやるぞッ!
良い声で泣いてくれよ日向ちゃん♡」

「や～ツや～らや～ああ～ツ！
おぐ～ツ駄目～ツ～や～つああ～ツ～
あ～ツ～あ～ツ～」

「お～良い声出すねえじゃか」

「ひ～ツ～！ひん～ん～ツ～!!
おくつオぐ～ひ～め～
や～ツ～あ～ツイ～ぐ～」

「オラ～！
イケイケッ日向～ツ～!!」

「いやらああああああ～ツ！
イ～ぐ～ツ～イ～ぐ～がら～ツ～奥は～や～め～
ひ～や～ツ～イ～ぐ～や～らや～らや～らあ～ツ～
イ～ぐ～うううう～ツ～」

「ひゃらああああああツ!!」

「うお…締まる…ツ!!
孕めツ! 日向孕めツ! 孕めツ!
俺様のガキ孕めええええツ!!」

「はい交代で日向ちゃん

「ふう…ふう…
どうだ俺様のち●ぽ
気持ち良かつただろ日向
子宮口ガンガン突いてあげるからね」

「や…い…嫌いやああああツ!!」

—数時間後—

「ひツあつあツ♥
んツんツ♥ちぐびがあああツ！
これイグツ♥ひいぐううううツ！」

「ふつ！ふつ！
奥もトントンしちゃうよ～」

「やあああツ！
おぐやらやらツ♥頭おがしご：
おがじぐなるからああああツ！！」

「く…やベツもう…射精すぞツ！
種付けでイケええええツ！」

「やらあああツ！
ひぐツ♥ひいぐうううツ♥」

「おお…すげ…搾られる…ツ」

「はう…♥あ…♥」

「次は俺だな
休んでる暇ねえぞ日向ちゃん」

「ゆ…るじ…て…ゆるじ…て…」

「あ〜いい〜...
JKの口ま●こ最高〜...」

「ん…ンンンツグツ…ん」

「一応言つとくが
歯立てんじやねーぞ
キマリちゃん」

びく

「ふツ…んツ…ぐうツ…んツ!!」

じゅぱ
じゅぱ
ビク

「あああ…ツきた…きたツ!
種汁上がつてきたツ!!
射精すぞツ! 口ま●こ種付けしてやるツ!!」

「ふ…ご…おぐッ！」

「キマリちゃん
頑張って飲めよ(笑)」

「ビク、
ビク」

「んぶ…つじ…
お…ぶぶ…ジッ!!」

「ふううまだまだ射精るぜッ！
で
今日の為にすっげえ貯めてきたからな♡」



「はあ…はあ
おおう…腰が…やべッ…溶ける…ツ」

「ぐ…ぶツ…んぶツ!!
ぶツ…おぐツ…ぶぐツ!!」

「ぐツ…お…どうだ…
俺の種汁…美味しいだろ…ツ」

「ぶツ…ごツ!
お…つお…」

び
び
び
び
び
び

び
び
び
び
び
び

び
び



「はあ～…
すげ～良かつた…」

「ご…ぶツぐ：
ふうーっ！ふうーーっ!!」

「…っ！
んんツ～♪～ツ～♪～ツ～!!」

「キマリちゃん
苦しいのはイヤでしょ？
オレはま●こハメて
気持ちよくしてあげるよ♡」

ビク

ビク

ビク



「おうエロいま●こしててるじゃん
そういやキマリちゃんて処女?」

「それはないんぢゃねえの
最近の若いやつは早えって言うし
経験済みだろ」

「あ……
け……
経験……
つて……」

「おう
もしかして……」

「へヘッマジか(笑)
俺がち●ぽの良さ
ま●こに教えてやるよ

「ほらほら
これがキマリちゃんを
女にするち●ほどよ♡」



「ひツ!」

ガク

「キマリま●こには
ちょっと大きいかなあー」

「あ…あ…あ…」

すり

すり

ガク

「さあいくよキマリちゃん
最高の初体験にしてあげるからね♡」

「や…やあああああッ!!」

「痛み耐えるので精一杯でか(笑)
大丈夫すぐに気持ちよくなるって
「♡」

「ふうーっ！」

「キマリちゃんんどう?
初めてのち●ぽは?」

「あ…つぐ!
ぐ…ツふ…んツ！」

「どんどん
入ってくよ！」

ビクン

ふーっ

ビクン

「んぎツ!
ぐツ…んぐぐぐツ!!」

「孕め孕めツ!
キマリ孕めツ孕めえええツ!!」

「ひツ! や…やめ…」

「射精すよツ射精すよツ!!
キマリちゃん孕ませちゃうよツ!!
いいよねツ!? いいよねツ!?」

「ふつ!?

「くつ…やべつ…やばい…ツ
これ…やべえつて…
俺…もう…」

「ふつ…んツんツ!!」

「ふつ…おツ…
すげ…キマリま●こ…ツ」

「ビツッ

「あ…ぐツ…ん!
ひツ…や…」

す
ち
ゅ

ビツッ

ビツッ

「あ……や……あ……」

「はあ……はあ……

キマリま●こ種付け完了つと……」

「ひ……う……ぐ……」

「ひ……う……ぐ……」

「ひ……う……ぐ……」

「ひ……う……ぐ……」

「おまツ……出しすぎだろ
後の奴のこと考えろよ」

「わりいわりい
久々の処女ま●こだつたんて
興奮してな……」

「キマリちゃん次はオレな
あッ……しまつた
撮つてねえじやねえか」

「あくすつかり忘れてたわ
撮影のこと……」

「あ……やあ……
あ……かちや……ん……や……あ」

「オラッいくぜッ!!
アヘ顔バツチリ撮つてやるからなキマリちゃん♡」

「嫌とか言うなよ
いい記念になるって(笑)」

「あ
い
や
だ!」

「おーしか
カメラ問題なし
初めていいぞ」

ぐ

ガウ

ガウ

REC 00:02:07

4K



「やあああああああああツ!!」

「おらいけツイケキマリツ!!
イッちまえツ!!」

ハ
ン

ハ
ン

ハ
ン

ハ
ン

「やツ! あツあああツ
ひや! ひやめ
いくツ: イぐツ」

「おうキマリちゃん
そろそろ限界かな?」

「ひ... ぐツ... ん... ふあツ!!
やツあつ
あツあツ!!」

ぐ

ビ
ク

ビ
ク

ビ
ク

ビ
ク

「や…あ…た…すけ…」

「次は俺か
ガンガンイカせてやるからな
キマリちゃん♥」

「お…お…ぐッ!
種汁搾り取られる…ツ!!」

「ひぐッ!!ぐ・んツ・♥」
「ぐ…お…オレも…ツ
孕めツ 孕めキマリツ!!
オレの種汁で孕めえええツ!!」

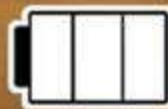
「ふ…んぐッ!
んんツ・んンジツ・♥」

ビワ

REC

00:07:56

4K



「やあやもやいきたがない」

「キマリちゃん
次いくよ」

「ふわああはあ
ふうはあ」

「ぐおツ!!
イキ●こ種付けツ!!」

「ひあああツ!!おぐツおぐやらツ
イグツまたイグツ
ひいぐうううツ!!」

「イケつイケキマリ!!
一番奥トントンされるの
好きなんだろ(笑)」

「びく

「ぞく

「びく

「ぞく

「びく

「ぐつ…いの…離してッ！」

「んなに嫌がらなくともいいじゃん
報瀬ちゃんのママも
やつてた事なんだぜ(笑)」

「ふ…ふざけ…ぐッ!!」

「いいねえ
この強気なところ
ハメがいがあるわ」



「はい報瀬ちゃん
そろそろいくよ準備いい?」

「…っ!?

すりすり

「報瀬ちゃん経験ある?
処女だと俺嬉しいなあ」

「どっちにしろ
俺達がちゃんと気持ちよく
してやつから安心しな♥」

「や…あ…
ま…ま…て…」

ガク

ガク

ガク

「ふきッ!!
ぐッ・んぐッ!!」

「おっしゃあ
報瀬ちゃんの処女ま●こゲットお
♥」

「ん…ぐッ
ふーッ! ふーッ!」

「さあ動くぜ報瀬ちゃん
初めてのセックス楽しめよ(笑)」

「ふツ！ふツ！ふツ！」

「あつ…がツ…
やツあツ！」

「ぐ…あ…す…げ…え…ぞ…報…瀬…ま…こ…
ち…●…ぼ…が…溶…け…る…ツ…！」

「ふツ…ん…ツン…ツ!!」

「ひツ…やツ…やあ…あ…あ…あ…あ…あ…ツ…!!」

「クソ…ツ…もう…射…精…る…ツ…!
孕…め…ツ…!!…孕…め…ツ…孕…め…報…瀬…ツ…!!
俺…の…特…濃…種…汁…で…孕…み…や…が…れ…え…え…え…ツ…!!」

ビクン

ビクン

グッ

ハ

ハ

「ぐ…おお射精…る…ツ
報瀬ま●こ種付け…種

お射精するツ
報瀬ま●こ種付け…種付け…ツ！」

「ちょっと早くねえか？(笑)

「はう…やれば分かるって
マジすげえから報瀬ま●こ」

「ふう…ツ
ふう…ツ
」

「おッ報瀬ちゃん
軽くいつた?」

「はあう…ふう…」
（どうして…体…なん…で）

「種付けですぐアヘるとか、母親そつくりじやねえか(笑)」「

「おーし
俺もがつたり種付けしてやるか」

「く…確かに…
やべえな報瀬ま●こ…ツー



「オラッ！ オラッどうだツ！」

「ひうんッ！
あツやつあツああツ!!!」

「報瀬ちゃんのママは
このち●ぽでアヘりまぐったんだぜ(笑)」

「やツあああツ！
ふツ…ぐんんツ：ひあツ！
や…や…めツ…やああツ!!!」

「ハのエロ声
聞いてるともう我慢できねえ…ツ」

「んふッ!?」

「だ…駄目だ…イ…くッ!!

報瀬ちゃんんッ射精すよ射精すよッ!

全部飲んでねッ!!

じゃぽッ

ビラッ

んーッ!
ン!!

く…や…ベッ
良す…きて…腰止まらねえヨッ!!

ぐ…んんッ!
おぐ…ぶッ!!

おう…ふう
報瀬ちゃんの口ま
きもちいり…

ー
ー

P

ー

び
ー

んふッ!!

「ぐつ…オラッ!!
口ま●こ種付けッ!!」

「ジッぐぶッ!!

／＼／＼

「ジッぐぶッ!!

「テメエも人の事言えねえ
くらい早いじゃねか(笑)」

「お…ぐんッ!!

「お…俺もイ…くッ!
報瀬イくぞイくぞッ!!
種付け決めてやるッ!!」

ビクッ

「ふんッ!!ん——ッ!!」

ビクッ

ビクッ

「おお…やばい…
射精止まら…ねえ…」

ビックン
ビック
ビーグー
ビーグー

ビックン

「ぶ…ツ…
ぶツ…んぐ…」

「うわ…報瀬ちゃん
かわいそう(笑)」

「ん…
んぐつ…? ご…ツ…
ぶ…ふ…ぐ…」

「お…ふ…う…
報瀬ちゃんまだまだ射精るよ…!!」

「孕め孕めツ報瀬ツ!」

「俺のガキ孕め報瀬えええツ!!」

ビック

ビック

ビック



「んんッ!?ンッん——ツ!!」
「報瀬ちゃん次いくぜ
ち●ぽの事しか考えられないようにしてやるからな」

「んんッ!?ンッん——ツ!!」

「まだ余韻に浸つてる感じだな(笑)」

「報瀬ちゃん種汁の味はどう?
しつかり味わって飲めよ」

「オイオイまた種付けでイったのか
淫乱ま●こすきだろ」

「俺も…止まら…ぐッ
はあ…すげえ射精る…」

「んッぐ…ぐ…ひぐッ!!」

「オラっ！オラっ！
なあに我慢してんだよ(笑)」

「ふううおう…
報瀬ちゃんお尻もいいわあ…」

「ひッぐ…ああ…や…めで…」

「ははッ
やめるわけねえだろ(笑)」

す
す
す
す

す
す
す
す



「う…お種汁上がってきた…ツ」

「は…おツオレも…そろそろ…」

「へ…え…」

「報瀬ちゃん
お待ちかねの種付けの時間だな♡」

「や…や…あ」

ガウ

ガウ

ガウ

す
ら
り
や

す
ら
り
や

「腰内はやめ…ひいあツ
やめ…たねづけはツ…ひツア
あだまツあだま…おが…しくツ…
おがしぐなるがらあああツ!!」

「おかしくなつちやえよ報瀬ちゃん♥」

「びざッ

「ひやああツ♥
だねづげゆるしでツゆるじでツ!!!
イぐツ♥イぐがらツ!ひいぐがらツ!!!」

「イケツイケ報瀬ツ!!
俺の種付けでアヘれええツ!!」

バタ

バタ

ビワ

バタ

バタ

す
す
す
す
す
す

「ひうんんゾツ♥」

「お…孕めツ…俺のガキ孕め報瀬…ツ」

「ぐお…お…ツ

射精る…射精る…ツ

「一びくッ

ぞく

一びくん

一びく

「ふーツ
ふーツ…」

「耐えるねえ報瀬ちゃん
だらしねえアヘ顔期待してたのによ

「ふうーツ♥ふー…」

「まあいいけどね
墮ちるまでハメるだけだし(笑)」

一数時間後

「やッあ♥ああああ♥ひやめツ!
あツア♥ただすげ・ひツン♥」

「孕め孕めツ俺様の種付けで孕めえええツ!!」

「ひやらひやらあああああツ!!
たねづげやらああああツ!!」

「ふうう種付け最高う!!」

「ふああく…
あー…ツ♥は…♥」

「まだまだ物足りねえだろ報瀬ちゃん(笑)

「は…♥あ…ひやう
やツ、あ!!イグツ♥ひいぐツ
ひやあああツ♥イグうううううツ!!」

「報瀬ちゃん最高の肉便器だわ♥」

「おう旨そうなま●してるな」

「お…願い…しま…す
や…止めてくだ…さ…い…」

「止…め…て…と…か…言…い…な…が…ら
ま●こ濡…れ…て…る…じ…や…ん…(笑)」

「や…いや…た…す…け…」

「嘘…は…い…け…ない…よ…結…月…ち…ん…
本…当…は…ハ…メ…て…欲…し…い…ん…だ…ろ…?」

「結月ちゃん見て見て
俺のち●ぱ♪」

「ひツ!!」

「ほらスリスリっと」

「や…やめ…て…」

「さあいくぜ結月ちゃん
ラブラブセックス始めちゃうよ♥」

「いや…嫌やああああああッ!!」

「んぎッ！
イアあああああツ！」

190

「くおお…
初物じやねえかッ！」

「おおいマジかよ!?」

「やあああッ 痛いッ！
痛いですッ！」

「結月ま●こ一番乗りとか
マジ最高だぜ」

「あ…ぎッ!
ひ…ぐッう…んぐッ!!」

「はあはあ…やべ…
俺…もう…」

「…!？」

「ぐ…おお…射精すよッ！」

結月ちゃん膣内に射精すよッ！」

「へッ…え…膣内って…」

「へッ…え…膣内って…」



す
す
す
す

「孕ますよッ 孕ますよ!!
俺の赤ちゃん産ませてあげるからね♡」

「やあああッ 嫌つ嫌ですッ!!
赤ちゃん嫌ですッ!!」

「結月孕めツ!!
孕め孕めええええええツ!!」

「う…あ…ああ…」

「ふ…お…おおお…
射精止まらねえ…」

「や…いあ…あ…かちやん…」

「や…いあ…あ…かちやん…」

「ふい…良かつたあ…
赤ちゃんの名前考えとけよ結月ちゃん(笑)」

「うう…ひぐ…いや…いや…」

「おし…次はオレね
結月ま●こにいっぱい射精してやるからな♥」

「や…いやああああああああッ!!」

「はい顔上げてね結月ちゃん」

ビク

「ふんッんんんッ!!」

「オラッ!
ち●ぽに集中しろッ!!!」

「だ…だれかッ
たす…け…ひうッ!!」

「おく…ふう…
結月ま●こすげえいいわ…」

「やッ…ひぐッ…あッ!」

「ふッふッ!
結月ちゃんどう?
悪くないでしょオレのち●ぽ」

ズ
ちゅ

ズ
ちゅ

「歯立てたらタダじゃすまねえからな」

「うぐッ!?」

す
す
す
す

「ぐッ…んぐ…
んんんんーッ!!」

「あ…ッイ…くッ!
気持ち良す…きて腰が…ッ」

「ふう…ううッ!
んんん!!」

「んーッんーッ!!」
射精すぞ結月ッ!
オレの特濃種汁全部飲めよッ!!」

じゅぽッ
じゅぽッ
ビク
ビク
ビク

「んぶッ!?
んぐ…ぶッ!!」

「ぐ…お…おおお…ッ」

「あ…あ
初めてなのにえげつねえな(笑)
ンッぐぶッ!!」

「びくん

「おお…ッ
射精るッまだ射精るぞ結月ッ!!」

す
す
す
す

「結月孕めッ孕めッ!!
オレ様そつくりのガキ孕めええええッ!!」

びく

「ぐっん?
んんッん!ん
ツ!!」

「くッお!!
オレもいく…ツ!!
結月種付けいくぞッ!!
オレのガキ孕ませてやるッ!!」

「んぐッぶ…ぼッ
ふ—ツ!ん—ツ!!」

「はあ…はあ
射精止まらねえ…ツ」

「おッ…ぶぐッ:
ぐぶ…ぶツ!!」

す
す
す

び
び
び
るるる

び
く

「…つ!! んんツ!! ん——ツ!!」

ビク

「結月ちゃん次は俺な
コイツ等と違つて
ちゃんとイかしてあげるからね♡」

「はあ…ふう…
オレも人生で一番の量かも…」

「ふい
すげえ量出たわ(笑)」

「んんツン!!
んぐツン——ツ!!」

「ふお…お…ふ…
結月ま●こ種付け…ツ」

ドク

ビク

ビクルン

ビク

「んッグンんッ!!」

「結月ちゃん

何で我慢するの?
気持ちいいんでしょ
エロい声聞かせてくれよ(笑)

「んッ…ぎ…ぐ…」

「へへっ
必死に耐えて可愛いねえ」

「ふ…ツ…ツ…
ふツ…ふ…ぐう…」

「んじゅ
そろそろ俺の本気見せちゃおかなか
♡」



「ひやッ!?
やッあッ ああああッ!!」

「どうだオラッ!
さっきまでとは全然違うだろ♥」

「ひいんッ!
ひツあああ♥あツアツ♥
ひやらッ!ひやらああああッ!!」

「イケッイケ結月ッ!!
俺のち●ぽでアヘっちゃえッ!!」

「やッんん♥
いっついぐッ♥やッあつアツ♥
やらやらやらイグうううッ!!」



「ふわああ……
あく……ふく……」

「くっすげ……締りが……ツ
孕めツ！ 孕め結月ツ!!
イキま●こ種付けで孕めえええツ!!」

「ひあツ!?
やツあああああああツ♥」

「お…オツ…ぐ!
コイツまたイキやがつた…ツ」

「頭ぶつ壊れるまで
いかしまくってやるからな結月ちゃん
♥」



—数時間後—

「あ……う……」

「結月ちゃん
そろそろ限界かな?」

「いやあ結構楽しめたな」

「んッ……あツ……あう……」

「結月ちゃん
最後の種付けいくよ♡」

「…あ……」

ビク

ハハ

ハハ

ハハ

ハハ



「おっ…そういうやこつちは弄つてねえな」

「んギツ！」

「ははッなんだ結月ちゃん
お尻好きなのか? (笑)」

「ん…ぐッ…や…
ひぐう！やああッあッやッ♥」

「お…お…
締りも戻つてきやがつたッ」

「ひやツあツアアアアツ
ひやめ：お：じり：だ：
ひいいツ！イグツイグ」


「イケオラッ!!
尻穴弄りでアヘっちまえツ!!」

「やあああ
ふあはあ～～～」

「結月孕めツ孕めええええツ!!」

「ふ…あ…あ…」

「いいねえ
まだまだ楽しめそうじゃん(笑)

「おっしゃ結月ちゃん
大好きな尻穴弄りでアヘらしてやるよ」

「だッだれ…がッ…ひゃあああツ!!
イグッ♥ひいぐッ♥いぐのやああああツ!!」

